

先端国際共同研究推進事業（ASPIRE）招へい型（インド）および インド若手科学頭脳循環プログラム（LOTUS Programme）における 2026 年度提案募集の開始について

JST（理事長 橋本 和仁）は、インドを対象とした先端国際共同研究推進事業（以下、ASPIRE という。）招へい型およびインド若手科学頭脳循環プログラム（以下、LOTUS Programme という。）における提案募集を 2026 年 3 月 13 日（金）から開始しました。

ASPIRE は、国際的な研究コミュニティにおける日本の存在感が低下している状況を打破し、科学技術力の維持・向上を図るため、政策上重要な科学技術分野での国際共同研究を通じて、日本と欧米など科学技術先進国・地域のトップ研究者同士を結び付け、研究コミュニティにおいて国際頭脳循環を加速させることを目指すものです。

今般、この ASPIRE において、新たに「招へい型」が設けられ、その対象国・地域にインドの追加が決定されました。これまで JST が進めてきた日本－インドの共同研究の基盤形成を図る LOTUS Programme との相乗効果により、日印共同研究やグローバルな「知」の交流促進、国際頭脳循環を通じて人材の育成などを図り、日本の研究力、イノベーション力の強化を目指します。

両プログラムの募集対象分野は、ASPIRE で定められている次の分野を主たる分野とします。

- ①AI・情報・知能ロボティクス、②バイオ、③エネルギー、④マテリアル、⑤量子、⑥半導体、⑦ネットワーク・通信

提案募集は、2026 年 6 月 9 日（火）正午まで実施し、運営統括（PD）および研究主幹（PO）が外部有識者らの協力を得ながら選考を行います。

詳細は、別紙および LOTUS Programme のウェブページをご覧ください。

URL : <https://www.jst.go.jp/program/india/call/>

<添付資料>

別紙：先端国際共同研究推進事業（ASPIRE）招へい型（インド）およびインド若手科学頭脳循環プログラム（LOTUS Programme）における 2026 年度提案募集の概要

参考：運営統括（PD）および研究主幹（PO）一覧（兼 インド若手研究人材招へい事業推進委員会 委員長・委員）

<お問い合わせ>

<事業に関すること>

科学技術振興機構 経営企画部 さくらサイエンスプログラム推進本部

〒102-8666 東京都千代田区四番町 5 番地 3

庄司 真理子（ショウジ マリコ）

E-mail : jst-india@jst.go.jp ※お問い合わせは電子メールでお願いします。

<報道に関すること>

科学技術振興機構 広報課

〒102-8666 東京都千代田区四番町5番地3

Tel : 03-5214-8404 Fax : 03-5214-8432

E-mail : jstkoho@jst.go.jp

<科学を支え、未来へつなぐ>

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JSTは、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JSTは荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JSTは、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

**先端国際共同研究推進事業（ASPIRE）招へい型（インド）および
インド若手科学頭脳循環プログラム（LOTUS Programme）における
2026 年度提案募集の概要**

1. プログラムの趣旨

近年研究力が急速に成長し、優秀な理工系人材の宝庫でもあるインドとの理工系分野の連携強化の必要性は急速に高まっています。IT 分野をはじめ世界各国によるインドの理工系人材の獲得競争が激化する中、日印間の人材交流・協力の早急な拡大と将来的な日本への定着・活躍に向けた支援は、国際頭脳循環の促進や科学技術・イノベーションの発展に不可欠な喫緊の課題です。

このような状況を踏まえ、インドとの研究交流を強化するためには、その基礎となる大学生レベルの交流、さらには大学院博士課程やポスドク研究者までを含めた若手研究人材の招へいなど、多層的な取り組みを通じて総合的に強化していく必要があります。

「先端国際共同研究推進事業（ASPIRE）招へい型（以下、LOTUS（ASPIRE 型）という。）」および「インド若手科学頭脳循環プログラム（以下、LOTUS（1 年型）という。）」は、日本の大学、研究開発法人などの公的研究機関が実施している、または実施を予定しているインドの研究機関との共同研究に基づき、インドの優秀な若手研究人材を日本に招へいして共同研究を遂行し、日本の科学技術力の維持・向上を目指すものです。

2. 公募概要

(1) 対象分野

両プログラムにおいては、科学技術の最先端分野における「国際的な研究コミュニティへの持続的な参画及び連携の基盤構築」に資する国際頭脳循環の促進を目指します。その観点から、以下の分野①～⑦の 7 分野を主たる対象とします。

提案募集は、運営統括（PD）および研究主幹（PO）（兼 インド若手研究人材招へい事業推進委員会 委員長・委員）が外部有識者らの協力を得ながら選考を行います。

分野①AI・情報・知能ロボティクス

「人間理解・尊重」、「多様性」、「持続可能」の理念のもと、Society5.0 の実現に向けた AI・情報研究及び知能ロボティクスに関する研究

分野②バイオ

農業・食品産業等を含む多様な分野における持続可能なバイオエコノミーの推進、環境負荷の低減等に係るバイオテクノロジー研究

分野③エネルギー

カーボンニュートラルの実現に向けたエネルギー研究

分野④マテリアル

カーボンニュートラル・循環経済の実現と産業競争力を支える革新的先端マテリアルの開拓に関する研究

分野⑤量子

生産性革命の実現や国及び国民の安全・安心の確保に貢献する量子コンピュータや量子技

術に係る研究や革新的な機能を有する量子物質の研究

分野⑥半導体

半導体産業基盤の強靱（きょうじん）化に係る研究

分野⑦ネットワーク・通信

スマート社会・デジタルインフラを支えるコンピュータネットワーク基盤技術及び次世代情報通信技術、サイバーフィジカルシステムとその応用に関する研究

(2) 招へい者の要件

インドの大学等の研究機関において大学院生（博士課程等）またはポストドクターとして在籍している、採択時点で原則 40 歳以下の者。

(3) 実施期間および滞在期間

<LOTUS (ASPIRE 型) >

実施期間は、実施機関との契約の締結後、最長で 36 カ月間。招へい者の滞在期間は、実施期間内であれば、複数回招へいすることも可能。

<LOTUS (1 年型) >

実施期間は、実施機関との契約の締結後、最長で 12 カ月間。招へい者の滞在期間は、実施期間内であれば、複数回招へいすることも可能。

(4) 採択予定数

合計 1,000 件程度

3. 募集期間

2026 年 3 月 13 日（金）～2026 年 6 月 9 日（火）正午

4. 提案の受付方法

<応募方法>

「府省共通研究開発管理システム（e-Rad）」により受け付けます。

府省共通研究開発管理システム（e-Rad）ポータルサイト

URL : <https://www.e-rad.go.jp/>

<公募要領、選考スケジュールなど>

詳細および最新情報は以下のウェブページをご確認ください。

URL : <https://www.jst.go.jp/program/india/call/>

<公募説明会>

全国 7 会場で公募説明会を実施予定

札幌、仙台、東京、名古屋、京都、大阪、福岡

※参加登録などの詳細は、上記<公募要領、選考スケジュールなど>の URL を参照ください。

5. お問い合わせ

科学技術振興機構 経営企画部 さくらサイエンスプログラム推進本部

〒102-8666 東京都千代田区四番町5番地3

庄司 真理子（ショウジ マリコ）

E-mail : jst-india@jst.go.jp

※お問い合わせは電子メールでお願いします

以上

運営統括（PD）および研究主幹（P0）一覧
（兼 インド若手研究人材招へい事業推進委員会 委員長・委員）

1. 運営統括（PD）／委員長

宝野 和博 物質・材料研究機構 理事長

2. 研究主幹（P0）／委員・分科会主査

・ AI・情報・知能ロボティクス分野

高木 剛 東京大学 大学院情報理工学系研究科 教授

・ バイオ分野

藤山 和仁 大阪大学 生物工学国際交流センター 教授

・ エネルギー分野

高田 保之 九州大学 カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 特命教授

・ マテリアル分野

北川 宏 京都大学 大学院理学研究科 教授／理事補

・ 量子分野

富田 章久 情報通信研究機構 量子 ICT 協創センター 主管研究員

・ 半導体分野

池田 誠 東京大学 大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター 教授・センター長

・ ネットワーク・通信分野

中尾 彰宏 東京大学 大学院工学系研究科 教授

（敬称略、所属・役職は 2026 年 3 月時点）